

安全データシート

1, 化学物質等及び会社情報

製品名 水酸化ナトリウム Sodium hydroxide

(化学) 苛性ソーダ

作成日 2000年10月24日

改訂日 2019年4月25日

会社名 東工薬株式会社

本社住所 〒103-0004 東京都中央区東日本橋 2-16-7

●連絡先及び緊急連絡先

担当部門 SDS 作成担当

担当住所 〒340 - 0813 埼玉県八潮市木曾根 744

電話番号 048 - 996 - 9235 FAX 番号 048 - 997 - 2597

2, 危険有害性の要約

【GHS 分類】 (NITE 分類)

健康に対する有害性	
皮膚腐食性/刺激性	: 区分 1
眼に対する重篤な損傷性 / 刺激性	: 区分 1
皮膚感作性	: 区分外
生殖細胞変異原性	: 区分外
特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露)	: 区分 1

環境に対する有害性

水性環境急性有害性	: 区分 3
水性環境慢性有害性	: 区分外

(注) 危険有害性の分類で、「分類対象外」及び「分類出来ない」は項目を省いた。

【GHS ラベル要素】

【GHS 絵表示】



【注意喚起語】

- 危険

【危険有害性情報】

- 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
- 重篤な眼の損傷
- 臓器の障害

(もし判れば影響を受けるすべての臓器を記載)

(他の経路からの暴露が有害でないことが決定的に証明されている場合、有害な暴露経路を記載)

- 水生生物に有害

【注意書】

【安全対策】

- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- ・保護眼鏡／保護面を着用すること。
- ・粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- ・粉じんまたはミストを吸入しないこと。
- ・環境への放出を避けること。

【救急処置】

- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
- ・特別処置が緊急に必要である
- ・直ちに医師に連絡すること。
- ・眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・皮膚(または髪)に付着した場合 : 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。
皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
- ・飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
- ・吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・暴露した場合 : 医師に連絡すること。

【保管】

- ・施錠して保管すること。

【廃棄】

- ・内容物／容器を都道府県知事の許可を得た産業廃棄物処理業者へ依頼する。

3, 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 単一製品

化学名 : 水酸化ナトリウム

化学式 : NaOH

CAS No : 1310-73-2

含有量 : 99%以上

化審法 : 1-410

安衛法 : 公表

4, 応急措置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気と安静。必要な場合には人工呼吸。医師に連絡。

- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣服を脱がせ、水と石けんで皮膚を洗浄。医師に連絡。応急処置を行うときは保護手袋を着用。
- 眼に入った場合 : 先ず数分間、多量の水で洗い流す（できればコンタクトレンズをはずす）。医師に連れて行く。
- 飲み込んだ場合 : 吐かせない。意識あるなら、口をすすぎ、2 - 4杯の牛乳か水を与える。意識なければ、何も与えない。医師に連絡。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項：応急処置を行うときは保護手袋を着用。

5, 火災時の措置

消火剤

粉末消火薬剤、二酸化炭素。

使ってはならない消化剤

周辺火災時、水で消火すると水酸化ナトリウムを溶かし環境に流れでるので、使用しない。

消火方法

周辺火災の場合、出切る限り速やかに容器を火災現場より遠ざける。移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。

着火した場合は風下の人を退避させ火元への燃料源を断ち、風上より消火剤を使用して消火する。消火に当たっては保護具を着用する。

特有の危険有害性 : データなし

特有の消火方法 : データなし

消火を行う者の保護のために着用する保護具：防火保護服、手袋に加え、空気呼吸器等を着用する。

6, 漏出時の措置

人体に対する注意事項

暴露しないよう十分な換気のもと保護具着用して行う。

保護具及び緊急時措置

「8. 暴露防止及び保護措置」における、保護具着用

極めて腐食性が強いので、作業の際には必ず保護具を着用する。

環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

回収、中和

漏出物をふた付の容器に集め、残留物を砂または不活性吸収剤に吸収させて安全な場所に移す。酸（希塩酸、希硫酸、酢酸）で中和し、大量の水で十分希釈し洗い流す。

7, 取扱い及び保管上の注意

取扱い

蒸気、ミスト、ガスが皮膚に触れたり、吸入することがないように局所排気をし保護具を着用する。

作業場を換気する。

作業中は飲食、喫煙をしない。

強酸との接触に注意する。

保管

密栓して換気のよい冷暗所に保管する。

強酸から離しておく。

8, 暴露防止及び保護措置

通気

: 換気装置を用いてミスト、ほこり、蒸気濃度を低く保つ。

管理濃度

: 未設定。

許容濃度

ACGIH (2006年)	: TLV-CL 2mg/m ³
日本産業衛生学会勧告値 (2004年)	: 2mg/m ³
OSHA PE	L: 8H TWA 2mg/m ³ (1994年)
NIOSH REL to NaOH-ai	r: CL 2mg/m ³ /15M (1992年)
MSHA STANDARD	: air-CL 2mg/m ³ (1971年)

設備対策

局所排気装置

保護具

防塵マスク。送気マスク、空気呼吸器等。

不浸透性保護手袋、長靴。

安全ゴーグル。

不浸透性保護衣。

9, 物理的及び化学的性質

外観	: 白色半透明の固体
臭い	: データなし
pH	: 強アルカリ性
融点	: 318°C
沸点	: 1,390°C
引火点	: データなし
爆発範囲の上限・下限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
比重 (相対密度)	: 2.130
溶解度	: 水に溶ける
n-オクタノール/水分配係数	: データなし
自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし

10, 安定性及び反応性

反応性と安定性 : 常温常圧で安定

避けるべき条件 (静電放電、衝撃、振動など) : データなし

混触不可物質 : 酸、二酸化炭素、通常の空気、アルミニウム、錫、亜鉛などの金属を腐食し、可燃性ガス (水素) を発生する。燐化合物と反応し、有毒・可燃性ガス (燐化水素) を発生する。ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。

危険な分解生成物 : ナトリウム酸化物

危険な重合反応 : しない

11, 有害性情報

急性毒性 経口

ウサギの LD₅₀ 値 325mg/kg (SIDS, 2002) のデータのみで、げっ歯類のデータがないため、指針に基づき分類できないとした。

急性毒性 経皮

データなし。

急性毒性 吸入: ガス

GHS の定義における固体である。

急性毒性 吸入: 蒸気

データなし。

急性毒性 吸入: 粉塵ミスト

データなし。

皮膚腐食性／刺激性

ヒト皮膚に対して0.5%以上でirritating(SIDS, 2002)、severe corrosion(DFGOT vol.12, 1999)を引き起こすとの記述及びブタ皮膚に対して8%以上でcorrosion(SIDS, 2002)、ウサギ皮膚に対して5%、4時間でsevere necrosis(ACGIH, 7th, 2001; PATTY, 5th, 2001)を引き起こすとの記述から区分1とした。

眼に対する重篤な損傷性／刺激性

ヒト眼に対してsevere, serious hazardを引き起こすとの記述(ACGIH, 7th, 2001; DFGOT vol.1 2, 1999; PATTY, 5th, 2001)及びウサギ眼に対して1.2%以上でcorrosiveを引き起こすとの記述(SIDS, 2002)から区分1とした。

呼吸器感作性

データなし。

皮膚感作性

皮膚感作性：ヒト皮膚での感作性試験でno skin sensitisationとの記述(SIDS, 2002; IUCLID)から区分外とした。”

生殖細胞変異原性

in vivo マウス骨髄小核試験で陰性(SIDS, 2002)及びin vitro 変異原性試験のAmes testで陰性との結果(SIDS, 2002; DFGOT vol.12, 1999)から区分外とした。

発がん性

週1回12週間のラット飲水投与において発がん性が認められないとの報告はあるが(DFGOT vol.12, 1999)、データ不足で分類できないとした。

生殖毒性

Reproductive and developmental toxicity で有用なデータはないとの記述(SIDS, 2002; DFGOTvol.12, 1999)から、データ不足のため分類できないとした。

特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）

ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記述(SIDS, 2002; ACGIH, 7th, 2001; DFGOTvol.12, 1999; PATTY, 5th, 2001)から区分1（呼吸器系）とした。

特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）

ラットでの吸入反復暴露で肺に障害を与えるとの記述(ACGIH, 7th, 2001; DFGOT vol.12, 1999;PATTY, 5th, 2001)があるが、データ不足のため分類できないとした。

吸引性呼吸器有害性

データなし。

12, 環境影響情報

生態毒性

水性環境急性有害性

甲殻類（ネコゼミジンコ属）の48時間LC50=40.4mg/L (SIDS, 2004) から、区分3とした。

水性環境慢性有害性

水溶液が強塩基となることが毒性の要因と考えられるが、環境水中では緩衝作用により毒性影響が緩和されるため、区分外とした。

13, 廃棄上の注意

中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

14, 輸送上の注意

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にこなう。

国連番号 : 1823

品名 : 水酸化ナトリウム、固体

国連分類 : 8（腐食性物質）

容器等級 : 2
 海洋汚染物質 : 非該当

15, 適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を通知すべき危険物及び有害物
 (政令番号 第 319 号「水酸化ナトリウム」
 名称等を表示すべき危険物及び有害物
 (政令番号 第 319 号「水酸化ナトリウム」
 (別表第 9))

毒物及び劇物取締法 : 劇物「水酸化ナトリウム」 包装等級 II

道路法 : 車両の水底トンネルの通行禁止「劇物」 (施行令第 19 条の 12)

消防法 : 非該当

化学物質管理促進法 (PRTR 法) : 非該当

船舶安全法 : 腐食性物質 (危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1)

航空法 : 腐食性物質 (施行規則第 194 条危険物告示別表第 1)

水質汚濁防止法 : ①生活環境項目 (施行令第三条第一項) 「水素イオン濃度」
 (排水基準) ・海域以外の公共用水域に排出されるもの 5.8 以上
 8.6 以下
 ・海域に排出されるもの 5.0 以上 9.0 以下
 ②指定物質 (法第二条第四項の政令で定める物質)
 「水酸化ナトリウム」

輸出貿易管理令 : キャッチオール規制
 別表第 1 の 16 項 第 28 類 無機化学品
 HSコード 2815.11-000
 「水酸化ナトリウム (かせいソーダ) 一固体のもの」

16, その他の情報

参考文献

- －メルクインデックス 13 版 8701
- －STN インターナショナル RTECS ファイル
- －危険物船舶運送及び貯蔵規則；危険物総索引 (九訂版) 日本海事検定協会 (海文堂)
- －NITE GHS 分類データ
- －NITE GHS 分類マニュアル (H18.2.10 版)

コメント

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。

全ての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さい。